

NPO 法人流山市国際交流協会



NIFANEWS

発行: NPO 法人 流山市国際交流協会
〒270-0111 流山市江戸川台東 1-4 3F
国際理解サポートセンター内
☎ : 04-7128-6007
Email:nifa-support@bz04.plala.or.jp
http:nifa-home.sakura.ne.jp/

オーストラリアのレッドリンスステートカレッジ (Redlynch State College RSC) から 2 年ぶりに生徒が来日、流山にホームステイしました。引率者のニコラス・スミスさん (普段はニックさんと呼んでいます) が学生の頃、当市にホームステイし、その素晴らしさに感動した体験が淵源。教職に就いてからは生徒たちを連れ日本を訪れ、流山にも必ず滞在し互いの交流を深めています。今ではおたかの森高校生が RSC を訪問、生徒同士がステイし合う関係に発展しています。

～思い出を詰め込んで見送り～



左からニックさん、大野さん、イアンさん、山崎さん、ペリンダさん、松館さん家族 9 月 23 日

流山到着の翌 21 日、RSC 生はおたかの森高校で日本の高校生活を体験しました。

1 時限は、RSC 生向けの「書道」。「風」と「海」の二つの文字を練習。道具やその使い方、書き順の説明のあと、それぞれ半紙に向かって書く練習。みんな興味深そうに真剣に取り組んでいました。最後に色紙にどちらかの文字を清書、署名入りで。どれも、僅か数十分の練習とは思えない個性的な出来栄。『「書道」とは、その字から受ける感じ、emotion を表現するもの、漢字を書くこととは違う』という先生の説明。アートと受け止めてくれたようです。色紙はよいお土産になりました。

2 時限は、「コミュニケーション基礎」の授業。1 年生と RSC の生徒が一緒になり、2 グループに分かれて授業。一つのグループは、おたか生 2, 3 人に RSC 生 1 名のグループを作り、その中で自己紹介、Q&A 等でお近づ

きになり、その後オーストラリアの紹介チラシ作りに挑戦。お国のことを聞かないわけにはいかない授業です。もう一つのグループは「What am I ?」又は「Who am I ?」のクイズです。おたか生、RSC 生が一人ずつ出題者になり、Q&A を重ねながら回答を当てるゲーム。もちろん全部英語です。

この後 RSC 生は、調理実習や体育などおたか生と一緒に充実した一日を過ごしました。若い生徒たちが、最初は「はにかみ」ながらもすぐに打ち解けて和やかに授業を進める姿はとても新鮮な印象でした。そして異なる環境で暮らす青年たちが、たとえ短い時間でも一緒に過ごす中で、互いを理解しようとする事の大切さを垣間見たように感じます。



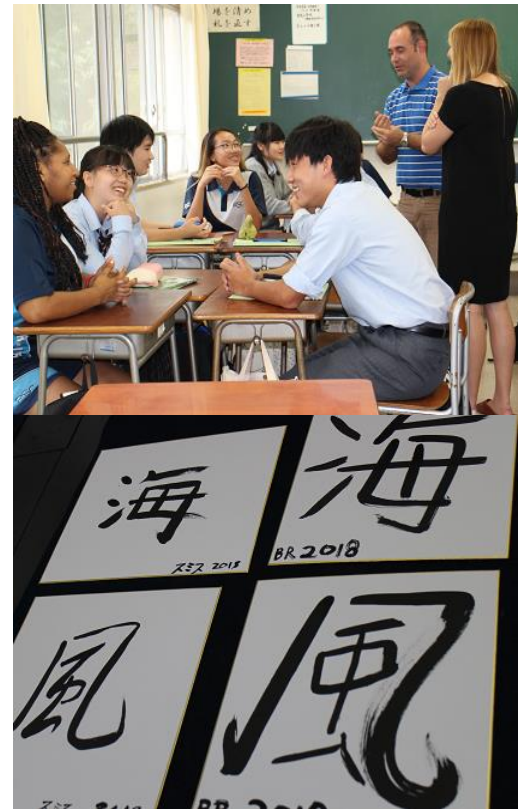
交歓授業の最後は一緒に汗をかきました ニックさん撮影



不安も心配も現地で飛消～海外研修感想～

千葉県立流山おおたかの森高校
国際コミュニケーション科 2 年 杉崎豪太さん

私は、夏休みにオーストラリア研修に行きました。行くまではかなり不安でした。英語をしっかりと話せるか、聞き取れるのかとても心配でしたし、外国人とコミュニケーションができるか不安でたまりませんでした。オーストラリアに着いていざホストファミリーと話してみると、あまり聞き取れませんでした。ファミリーが何とか理解させようとしてくれたのがとてもうれしかったです。最初の頃は緊張しましたが、ホストファミリーの人は優しく気軽に話しかけてくれたので、日を重ねるうちにだんだん楽しくなってきました。平日はオーストラリアの学校に行き、一緒に授業したりしました。校庭では自分に話しかけてくれる人がたくさんいて、「自分はラグビーをやっています」と言うと、興味を持って一緒にプレイをしました。二週間の最初は長いと思いましたが、終わる頃にはとても短いと感じ、もっと長くいられたらと思いました。初めての外国で色々な人と会い、日本では体験できない貴重な体験をすることができました。



家族みんなで普段着のままで～RSCの引率教員のステイ受け入れ～ ホームステイ事業部 松館史子さん

9月20日(木)にオーストラリアのケアンズの高校から、20人の生徒と3人の先生が流山市に3泊ホームステイしました。私の家にホームステイしたのは、引率のベリンダさんという女性の先生でした。日本に来るのは4回目ですが日本語はほとんど話せません。けれども私はオーストラリアで1年以上留学経験があり、その時に知会えたオーストラリア人の友人と今も交流があるので、受け入れには何も不安もなく、むしろ会って話すことがとても楽しみでした。私には2人の幼い息子がおりますが、4歳の長男は英語に興味をもっていましたし、1歳の次男も好奇心旺盛で社交的な性格なので、すぐに慣れるだろうと思っていました。

初日は、最初だけしばらく緊張して接していましたが、一緒にテレビを見たり、絵本やお土産を通して会話(子どもは日本語で、ベリンダ先生は英語で)をしていくうちに打ち解けていきました。例えば長男は「これは英語でなんて言うの?」の連発。ベリンダさんが一つ一つ発音して、長男がそれを聞いたまま発音してみせました。次男は、CMや子どもに人気の歌が流れるとにこにこして踊って見せていました。子どもの順応性には驚きました。ベリンダさんの家族には小さい姪や甥さんがたくさんいらっしゃるそうで子どもとの接し方には慣れていて助かりました。だだをこねたり、急に機嫌が悪くなったり、「何でそんなものに?」と大人が思う何かに夢中になったりと、「国は違っても、子どもは同じようなところがあるね」と大人も話が盛り上がりしました。

夫が料理人なので初日の夕食は、腕によりをかけてごちそうを作ってくれました。特にベリンダさんが気に入ったのは牛ステーキに添えた柚子胡椒でした。しょうゆやわさびは以前から知っていたそうですが、今回初めて柚子胡椒を食べて気に入り、お土産に購入していました。去年の長男のハロウィンパーティーの写真を見せていたときに、ハロウィンデコレーション海苔にも興味を持っていました。



ベリンダさんには和室を提供しました。布団を敷いて寝ても、ちゃんと熟睡できたようで安心しました。オーストラリアでは朝シャワーを浴びる家庭が多いのですが、マイクロ泡が出て、ジェットバスにもなるバスタブなので、夜に入ると疲れがとれるよと勧めたところ、初日と3日目の夜に入ってくれました。

3日目の土曜日は、セブンパークアリオ柏という大きなショッピングモールにみんなで出かけました。ベリンダさんはお土産の他に、滞在させてくれたお礼に料理をふるまいたいということで、食材を買っていました。ただハーブの一つ(フレッシュなフェンネル)が日本ではあまりなじみのないものだったため、大きなスーパーマーケットでも見つけることができませんでした。サーモンとパンチェッタとベビーリーフを使って作ってくれました。しかし、作ったのを食べてみるとハーブがなくても気にならないくらいおいしかったです。最終夜は、2人の息子たちともじゃれ合って楽しく過ごしました。あっという間の3泊で、長男はすっかりなついて別れは名残惜しくなりました。来年はラグビー世界大会があるので夫婦で来日するかもしれないとのこと。また会える日が楽しみです。



NIFA の人

ニコラス・スミスさん

(オーストラリア レッドリンチカレッジ教師)



- 皆さん、こんにちは。ニック・スミスと申します。レッドリンチ・ステート・カレッジの言語部長です。オーストラリアのクインズランド州のケアンズから修学旅行に来ました。
- ケアンズの人口はやく十五万人で、流山と同じぐらいですね。重要な産業は農業と観光です。農業にたいしては、くだもの、こむぎ、コーヒー、牛肉、じゃがいも、さとうきびなどありますが、最近は観光業が重要視されています。ケアンズの近くにはしぜんの名所がたくさんあって、とくにグレート・バリア・リーフやディントリーのねっというりんは有名です。でも、一番おもしろいところは場所ではなくて、ケアンズの地域はオーストラリアで一番雨が降り多い町ということです。毎年、雨が4250ミリぐらいふります。はっきり言って、きせつは2つしかありません。雨季と乾季です。
- 私は大学の時に教育実習のために、クラスメートとはじめて日本に来ました。先生は私達を、東京、小松、大阪、神戸、などにつれて行って、おもしろい所をたくさん見せてくれました。私は日本の何もかもが大好きになりました。だから、勉強の後で、すこし自由な時間があつたので、旅行したいと思いました。大学の先生は「もしよければ、千葉の流山でホームステイができます」と言いました。楽しそうだと思って、千葉に行って、大野さん(注)のところでホームステイを体験しました。家族はとても親切で、私はたいへんお世話になりました。18歳だったのに、いっぱい遊びました。すぐ、大野さん達は私の日本の家族になりました。その時から、いつも日本に来たら、かならず会います。(注) 元 NIFA 会長の 大野榮一さんのこと
- 卒業した後で、日本語の教師になりました。ある日、はじめての修学旅行を計画しているときに、「ホームステイができれば、いいね」と考えました。そして、大野さんに連絡した時、この問題について話しまし

★ 日本語でメッセージをいただきました

- た。大野さんは「心配、いらない。僕は今年 NIFA の責任者だよ。ホームステイができます」と言いました。2007年に初めて流山にバビンダの高校とホームステイをしました。それから毎2年に1度、2010年からレッドリンチ・カレッジを連れて来ました。
- レッドリンチ・カレッジはかなり新しく、人数は1850人ぐらいです。カレッジと言うのは小学校、中学、高校などはいっしょのことですから、ようちえんから高校3年生まで勉強することができます。今年も、生徒がようちえんから日本語や日本の文化について習っています。中学校からフランス語も習っています。さらに、二年前から、レッドリンチは国際学校になって、世界の留学生はカレッジで勉強したり、ホームステイしたり、できて、とてもいいと思っています。
 - これから、四日間ほど流山市で日本の生活を経験させていただきました。みんなは日本に来ることをとても楽しみにしていました。生徒たちは日本の習慣や文化についてオーストラリアで勉強いたしましたが、まだたくさん知らないことがあるのでこちらにいる間、日本のことをたくさん見たり、習ったりしたいと思っています。とくに、おおたかの森高校を見に行きたいです。毎年、おおたかの森高校のみなさんはレッドリンチに来て、二週間ホームステイをしました。だから、私たちが日本に来る時、オーストラリアで作った友達にまた会えます。今年、おおたかの森高校に行く時、生徒たちは料理、体育、英会話などにさんかします。皆さんは楽しみにしてます。
 - いつも流山に来る時、このすばらしい町にあこがれます。だれでも親切だし、景色もきれいだし、住みやすい町なんです。またここで来られて、うれしいです。どうぞよろしく願いいたします。



✧ キッコーマンアリーナでもオランダ教室(9月18日)

～オランダからの女子バレーボールチームの合宿を前に～

休館日で静かな空気の中、キッコーマンアリーナの職員の方は朝から研修に集まりました。

テーマは「オランダの文化と語学研修」です。NIFA がアリーナの運営会社から依頼され開催したもの。講師はニフュヌス・ヨスさん、すっかりお馴染みです。第1部は「オランダについて知る」。ヨスさんがオランダの地理、国が作られた歴史、日本との関わり、産業、文化、スポーツ、食生活等をプレゼンテーション。第2部は「オランダ語を練習しよう」、「おはようございます」(Goete morgen)、「こんにちは」(Goeden dag, Goede middag, Goede avond)、「ありがとう」(Dank u)、「はい」(ja)、「いいえ」(nee)など簡単な言葉の練習。迎える時に言えばよい言葉、ヨスさんからは『発音は難しいから正しくなくて OK』のコメント。第3部は「英語を練習しよう」。「何かご用ですか?」(May I help you?)、「ここからは靴を脱いでください」(Take off your shoes here)、「責任者を呼んでください」(I call the person who is in charge) 等聞かれた時に英語で言えば便利な表現を練習。オランダ語も、英語もヨスさんの後について繰り返したり、同じテーブルの人同士で対話したりの練習。「大きな声で、笑顔で対応しよう」、これが締めくくりの言葉。さて23日からの合宿練習では役に立ったでしょうか。



✧ オランダ料理が我が家の食卓にも



11月13日(火)、初石公民館はアップルソース用のリンゴを煮る甘い香りが立ち込めました。NIFA が流山市から委託された「オランダ交流事業」の一つ、「オランダ料理教室」の開催です。講師はステフ ヴァンラムーン(Stef van Lamoen)さん、オランダ出身の方、おたかの森のイタリアンレストラン「BARN & FOREST 148 café」でシェフをされています。

この日のメニューは、「オランダのトマトソース」、「人参とじゃが芋のスタンポット スモークソーセージとアップルソース添え」、それに「バナナパンケーキ」の三品。



「トマトやポテトはオランダでもよく使う食材」、「オランダではパンケーキだけで100種類くらいある人気の食べ物」といったステフさんのお話や、パンケーキをひっくり返すときの歓声で教室は大盛り上がり。

小さなミートボール入りの酸味の効いた濃厚なスープ、人参の入ったマッシュポテトとアップルソースの組み合わせ、パンケーキの上品な甘さに、参加された23名の皆さまはオランダの味覚を楽しみました。11月27日(火)にも東部公民館で開催します。

✧ ピンポンとバリ島の舞踊とケチャで歓迎、インドネシアの高校生を

10月7日(日)は真夏日でした。この日はインドネシアからの高校生を迎えて歓迎会。いつもと全く趣向を変え、コミュニティセンターで午前は卓球大会、その後昼食、懇親会を開催。毎年NIFAは「IM Japan」(*)を通じ、東南アジアの高校生を受け入れており、今回4名の生徒がステイしました。

迎える方は、ホームステイ事業部を中心に多くは高校生の親以上の年代、世代を超えて4台の卓球台を挟み、ピンポンを楽しみました。みんな久しぶりにラケットを握った様子、行方の定まらないボールを追う歓声が広い体育館にこだましていました。大汗が引いてから昼食会、この時にゼラズスキー香さんと友人ご家族がインドネシアの舞踊で4人を歓迎。彼らもあでやかなバリ島の民族衣装と音楽、独特の身のこなしに見入っていました。最後は全員が2グループに分かれ、独特の掛け声をくち口三味線よろしく、打楽器風のリズムに乗せて掛け合う「ケチャ」(*)を楽しみました。



(*) IM Japan (アイムジャパン) : (交財)「国際人材育成機構」の略称。主に東南アジアの技能実習生に対し、国内での教育・研修機会を提供する機関。NIFAの賛助会員。

(*) ケチャ : バリ島で行われる男声合唱。または呪術的な踊り(サンヒャン)にともなう舞踏劇。

☆ NIFAは流山SGGクラブ主催「英語による体験会」を後援しました



9月18日(火)、運河沿いの竹林の中、白壁が陽に映える「平左衛門ギャラリー」に、流山の魅力を英語で伝えたいと志す人達20名ほどが集まりました。「流山SGGクラブ」(Nagareyama Systematized Goodwill Guide)が主催する「英語による体験会」です。この催しには流山市、流山市観光協会と共にNIFAも後援しました。講師は、根岸正氏(CEL 英語ソリューションズ チーフインストラクター、通訳案内士)。

午前は先ず根岸氏の講義、来日観光客の傾向、一般的なガイドの心構え、留意点などの説明を受けました。次にグループワーク、それぞれ市内の観光スポットの説明内容の掘り下げ、ガイドの英文作成などに充てました。

午後は運河沿いを歩きながらガイドの実践。眺望の丘、ビリケン像前、運河碑前、醸造所前では参加した人が順番に英語でガイドをしました。講義での『観光通訳ガイドは「心と心の橋渡し」』、『来訪者の85%はアジアから、英語で対応OK。しかも中学レベルの方が望ましい』といった説明、観光案内版の前では、「〇〇によると」を、『「according to ～」よりも「Board says」の方が分かり易い』などの指導が実践的でした。

次回の体験会は11月21日(水)、流山本町界隈を巡ります。2年後のオリンピックの頃には流山の街々にも今よりも大勢の外国の人たちが訪れるでしょう。流山SGGクラブとNIFAとの協働の機会、可能性は広がりつつあると感じます。

☆ オリンピック、パラリンピックを支えます

通訳ボランティア養成講座受講レポート ～1～

10月に印西市で行われた3回の通訳ボランティア講座を受講しました。ここでは東京オリンピック・パラリンピックボランティアになる上で、通訳としての心構え・マナーだけでなく両大会ボランティアの役割や大会の基礎知識を学びました。

ロンドンオリンピック銀メダリストから実際の選手村の中の様子や千葉市で行われるフェンシングのルール、アスリートの試合直前の心理状況がいかでデリケートになっているか、そして食事や会場案内サポートボランティアにととても助けられた事などお話しいただきました。

また、日本ゴールボール協会の方からパラリンピックについて講義いただき、実際にゴールボールで使われるアイシェード(専用アイマスク)をつけた状態で、目の見えない状態でのラジオ体操の体験、鈴の入ったゴールボールでの転がしキャッチボールなどを体験しました。そして目の見えない方を歩行ガイドする際の注意点、サポートするために大事な心構えを学びました。

外国語講座事業部 湯浅志保さん



シェードをつけてゴールボールを追いました

☆ そば打ちは奥が深そう～日本語講座体験学習会～

10月24日、中央公民館に日本語講座の生徒の方13人を含め、総勢25人がエプロン、被り物姿で集まりました。今年は趣を変えて日本の食文化に挑戦です。講師は上原富夫さん、市内で手打ちそば店「無名庵」を営む傍ら、体験会でそばの魅力を発信されています。



「そば打ち体験に参加してとても楽しかったです。先生がとてもわかりやすくていねいに教えてくれました。簡単そうに見えたんですけど、実際にやってみたらむず



かしかったです。思うとおりにいかなくて、そばというよりパスタになってしまったけど、とてもおいしかったです。」「そばを作る体験は初めてでした。そばはかんたんな料理と思っていましたが、実は奥が深い料理でした。日本文化を感じました。」「そば打ちの活動はとても楽しかったです。その日そば作りを学んで、そばの文化も少し分かってきました。そばの先生のおもしろい授業を受けて楽しかったです。今後の生活にも役に立つと思います。又家で自分で作りたいと思います。自分が作ったそばは高ですね。ありがとうございました。」参加された生徒の皆さんの感想から、楽しい様子が伝わってきます。

☆ キッズの躍動に挟まれて木蘭扇の妖艶な舞

11月4日市民祭りに出演
キックマンアリーナにて
「彩蝶紛飛」と「青花瓷」を舞う





♪ 暮らしやすいコミュニティの一助に ♪

外国語支援事業部

災害に遭った時の備えについて、HPや冊子の一部を紹介します。今回は中国語です。

★ 如何避免地震之后的火灾发生

★ 家庭の日常検査

不要将电视机等重东西放在柜子或架子等高所。

不在厨房的火炉旁放置易燃物。

为预防灾害，要经常和家人商量

- a 家中安全的地方
- b 离家近的避难所，避难路径
- c 因地震家人失散后的联络地点和方法。



★ 地震後の火災発生を防ぐために 日々の家庭でのチェックを ★

テレビのような重いものを棚や整理タンスの上、その他高いところに置かないこと

燃えやすいものは、台所のコンロから離れたところに置くこと

災害にそなえて今一度家族と次のことを話しておこう

- a 家の中で一番安全な場所
- b 家から一番近い非難場所・施設と行き方
- c 地震で家族が離れ離れになった時の互いの連絡方法



会員の投稿

深い森に 中世の街並み ～歴史に翻弄されたバルト三国とポーランドの旅～

ホームステイ事業部 有吉勝子さん

9月11日から8日間、バルト三国とポーランドに行ってきました。

皆さんはバルト三国の並び方を知っていますか？バルト海を挟んでフィンランド側から（北）からエストニア・ラトビア・リトアニア・ポーランドです。私は国の名前と位置を覚えるのだけでも大変でした。位置的には4国共北海道より北にあり特にエストニア・ラトビアはもう日本の晩秋くらいの寒さでした。各家庭にリンゴが地面につくほどたわわに実っていたのが印象的でした。複雑な歴史があったようですが私の目から見ると全体的にはヨーロッパ風です。

車窓からは三国とも山はなく平坦な草原で針葉樹林がどこまでも広がり、昔深い森の中に作られた都市だということがわかります。旧市街はどこも中世時代が色濃く残っていて森林の中に古城や教会や湖が点在し美しい風景でした。リトアニアのカウナスでは日本のシンドラーとして知られる杉原千畝ゆかりの杉原記念館を見学しました。またトラカイ城に白鳥が泳いでいるのも素晴らしい景色でした。

食べ物では鯪（ニシン）の塩付けがありロシアのピロシキやザワークラウトを使ったサラダやスープなどがありました。ジャガイモもよく使われるようです。全体的に味は日本人の口に合うと思います。旅行中転勤でブラジルに住んでいる娘に女の子が産まれて忘れられない旅行となりました。



* エストニアの首都タリンの旧市街

創立 30 周年記念事業企画会議の報告（第1回）2018年9月20日

1. 記念誌の制作 2. 記念行事またはイベントの開催（1,2いずれも内容は今後の検討）

- * 記念行事の開催時期：2020 東京オリンピック、パラリンピック後とする
- * 広く市民の参加を得、NIFA の認知度を高める内容の事業とする
- * 年度内に事業の大綱を決定し、次年度から準備を始める

広報部長：小谷良美

部員：西山勝、李明勲

谷口宏美、伊藤恵佑

NIFA にはお届けしたい情

報が沢山。割付に苦労